

(区長答弁)

1 区内の交通施策の推進について

(1) 区内循環バス事業の見直しについて

昨年10月に、地域公共交通等調査特別委員会から、利用実態に応じた区内循環バス事業の見直しを含む「すみだの公共交通のあるべき姿に関する提言書」をいただきました。

その中に、ビッグデータを活用した区民の利便性向上につながる、区内循環バスのルート変更の検討などの提言もあることから、来年度は、携帯電話の位置情報から取得したデータによる人の移動実態を把握するほか、区民アンケート等の分析を行い、区民の皆さんと運行等の課題を共有していく予定です。

運行ルートや運賃等については、墨田区地域公共交通活性化協議会の議論や、利用実態、事業収支率などを踏まえ、見直し素案を作成し、議会に報告する予定です。

なお、運行事業者については、運転士不足等によりバス路線が廃止されるなど、新規参入が厳しい状況にあることから、改めて現在の運行経費やサービス水準などを評価した上で、公共性や公益性に寄与する事業者を適切に選定していきます。

(2) 新たな交通手段(グリーンスローモビリティ)の導入検討について

グリーンスローモビリティは、気軽で便利に移動でき、既存の公共交通の機能を地域で補完するものとして、有効な手段の一つと認識しています。

今年度は、この新しい移動手段を区民の皆さんに知っていただくため、来月のUDCすみだ主催イベントで、千葉大学との連携による乗車体験会を行う予定です。

来年度は実証実験を行い、その成果を検証した上で、本区の特性に応じた新しい移動サービス導入の可能性を検討していきます。

2 自転車駐車場の環境整備について

(1) キャンセル待ちが発生している自転車駐車場の改善について

区では、特別委員会での議論も踏まえ、ご案内のキャンセル待ちが発生している駅周辺の用地確保に向けて、具体的な検討を進めているところです。

また、来年度から新たに、民間事業者が自転車駐車場を整備する際の費用の一部を区が助成する「民間自転車駐車場運営支援事業」を開始する予定です。

このような取組により、駅周辺の遊休地等の活用を促すことで、自転車駐車場の整備に努めていきます。

(2) 様々な種類の自転車に配慮した駐輪環境の整備について

近年は、大型の子ども乗せ自転車や、電動アシスト自転車の利用が増加し、また、電動キックボード等の特定小型原動機付自転車の利用の増加も予想されることから、ご指摘のように、

多様な形状の自転車が駐車できる環境を整備していく必要があります。

区では、これまでも自転車活用推進計画に基づき、各車両の需要バランスを踏まえながら、自転車駐車場のレイアウト変更を行っていますが、今後は、大型の自転車にも対応できる新型ラックへの転換等の新たな手法を検討していきます。

また、錦糸町駅周辺の自転車駐車場では、平日、日中を中心に、当日利用の平置き区画が満車状態になることがあります。こうした問題に対応するため、利用者がリアルタイムで空き状況を確認できるよう、インターネット上での空き状況の表示など DX を推進し、利用者の利便性向上を図っていきます。

***本要旨は聞き取りによるもので公式なものではありません。**